文科省キャラバン「これからの不登校支援」2025.12.7　参加者アンケート

・不登校支援に関する国の取り組み。思いが知れたのが大変学びになりました。また当事者二人の経験について聞けたことがこれからの活動の参考になりました。関わっている子どもたち、保護者の希望になります。伝えていきたいと思います。ありがとうございました。

・上久保さんのお話も今の支援状況がわかり、とても良かったです。十勝の公民の連携が素晴らしく旭川も同じような連携を取っていきたいと感じました。

・今日は中村さん、大島さんの挨拶に始まり、そして上久保さん、それぞれの立場の視点からの話がとても良かったです。そして帯広市の事例発表、ぷれいおんとかちでの実践、何より星槎高校の二人の生の声がある構成も感心しました。心の内を話してくれたお二人に感謝申し上げます。不登校支援は今の教育を見つめなおすことであり、何ができるか学校現場だけでなく地域で考えチャレンジしていくこと、子ども基本法の視点も大切にしたいです。ぜひ帯広市でも子どもたちが学校をどう思っているのか。アンケートを取って政策に生かしてもらいたいです。

・文科省の方の貴重なお話を聞けてとても良かったです。まさにうちの子が望んでいた政策でした。これが今後現場にどう反映されていくか早急に実行していただきたいです。現状では、学びの機会を失っていて、学校にオンラインや他の方法での学びをお願いしても何ひとつできていません。校内教室も利用許可が必要だし、保健室も長居は不可と言われました。家で何もできない状況に不安と焦りがあります。どうかこういう親子を減らすために学校の対応や考え方を変えるなど、早急にお願いしたいです。本日はありがとうございました。(起立性調節障害　保護者)

・不登校支援についての理解が深まりました。ありがとうございました。

・今回のような不登校支援に関して学び、情報を得る機会が少なかったので、理解を深めることができました。ありがとうございました。

・文科省キャラバンにて本日のような内容で講演がされることは非常に有意義であると思いました。不登校を生まないための学校づくりができているのか？という問い、とても大切であると思いました。先生たちも本当に大変です。だからこそ、本日のような内容を先生たちにも聞いてもらえたらと思います。※サポートガイドがあったこと知りました。すばらしいと思います。帯広市も頑張っていること分かりますが、民間の力をもっと活用することも必要ではないでしょうか？体験発表もすごく良かったです。素晴らしいです。

・現在教員をしていて、私自身も不登校になった経験がある。以前に不登校の児童の支援にも参加させていただいたが、自分の経験の話しかできず力不足を感じた。今回のキャラバンに参加し改めて学校でどのような支援が必要か、学校以外にどのような選択ができるのかを提示してあげることが大事だと知ることができた。また、不登校になってしまう理由として学校のやる気がでないというものが大きな割合を占めているということを知ることができた。一人一台タブレット、スマホを持っている時代に学校でできる目新しい授業や体験をさせてあげられるようにするにはどうすればいいのかも考えていきたい。

・あまり不登校になった当事者の声が届いていないなと感じた。私も経験したからこそ星槎二人のことばに共感したし、個人的に思ったのは教育機会確保法をもっと知ってもらうべきだと思った。教員が特に知るべき。学校を行けていない人はどこかに出かけて気分転換もしづらいので不登校を異常視しないでほしい。「学校に行っていない人をターゲットに」をベースに活動しているところには行きづらい。自分が行けていないことを再確認してしまう。

・校内教育支援センターが全国で６割も普及していることを知り驚きました。江別市の校内教育支援センターでボランティアをしていた時期がありました。あの空間は児童生徒だけでなく教員の方の居場所でもあったように感じました。帯広市でもその動きがあることを今日初めて知りました。ぜひご尽力させていただけたらと思いながら話を聞いておりました。以前は学童保育で勤務をしておりました。学校に行きたくない、でも学童は楽しいという声が子ども、保護者から聞こえてきました。子どもたちの居場所、保護者が弱音を安心してはける場所、その存在が必要なんだと痛感しております。貴重なお時間をいただきありがとうございました。P.S　子どもたちが校則を変えていく話を聞いて決まりやルールがどんな意味があるのかを子どもたちが理解できるかということがすごく大事な気がしました。

・分かりやすいお話をありがとうございました。現役の時に聞くことができたら、もう少し子どもたちを分かり合えた場面もあったのかと思います。現在不登校・登校拒否を考える親の会でお手伝いをしていますが、不登校の児童生徒が増えていることに虚しさを覚えることも多々あります。当事者を受け入れる環境整備を行政に求めたいです。（受け皿の拡大）（公的な支援）

・スピーカー型からファシリテーターへ、ぜひ望みます。文科省のお考え、下支えが現場に浸透、実践されるのには時間がかかるのだと感じました。少しずつ変化はしていますが、教員によって対応は様々、子どもの心を置き去りにしない現場になるように願います。不登校の状況も色々。本人はもちろん、親の支援ははずせない。学校へ戻ることが解決ではなく、他もある視点を含めて欲しい。大人が一生懸命に考えていることはとっても良いこと。当の本人たちはどうあってほしいと思っているのだろう。もしも学校（の様な場）をつくるとしたらどんな場所を必要と感じているのだろう。子どもたちの声を聞く（伝える場）大人が耳を傾ける場であって良かったと思う。星槎の皆さんのお話が一番良かった♪経験しないと分からない、見えないことがある。当事者や経験済みの方が支援に加わると変わってくると思う。もっと意見を聞くべきと感じます。

・本日は貴重なお話をありがとうございました。学校現場では小さなＳＯＳを見逃さないこと、保護者のケア等で多忙な日々を送っていますが、やはり学校としてチームとして取り組む必要性を感じました。そのためには学校内で不登校に対しての共通理解と対応が大切であることが分かりました。今は学校だけでは対応できない部分もあるので、地域との連携が重要であると分かりました。星槎高校の生徒の二人が学校の別室登校で助かったと言っていた話はとても嬉しかったです。

・本日はありがとうございました。医療と福祉の専門職でございます。教育機関（教員が）心理、福祉との連携をかたくなに拒否される現状が過去にあり、独自でサポートに関わらせてもらいました。不登校になるにはなんらかのきっかけがあったかと思われますが、教員が聞く耳をもたない、もってくれない否定、非難されたとお話されてました。学校（教員）にできることも限りがあると思いますので、もっと積極的なる連携、チームづくりに取り組んでいただきたいです。ちなみに私は不登校を選択できず苦登校をしていた人間です。不登校の前に苦登校というものがあることも知っていただけると助かります。

・自治体の不登校支援対策に関わって３年になります。以前ココロプランの内容についての解説を受けたことがあります。伝達研修でした。今回はそのココロプランに関わってさらに様々な話を聞くことができ、有意義な時間となりました。大変ありがとうございました。

・保護者です。子どもたち、それぞれ不登校の時期はありましたが、学校の対応が先生によってマチマチで今不登校の娘については、学校に行ったらいいなという想いもなくなってしまいました。そのことが娘の不利益になりそうで、別の方法をみつけたくて今日はお話を聞きに来ました。まずはぷれいおんとかちさんの相談にいってみたいなと思いました。

・学校は社会性を学ぶところ、横ならびの教育ということではない。教員はスーパーマンではないのだから福祉、カウンセラー、地域との役割分担が必要、まったくその通りと思います。子どもたちが学校でどう見ているか、学校はその結果をみて改善する点がないのか、この先生きていく上で必要な考え方。ＩＣＴ端末があれば、知識技能は習得できる時代にどんな授業とするのか。スピーカー型の一斉授業でいいのか。教員も工夫が必要だと思う。ファシリテーターにならなければ…？「学校に行きたい！」と思える環境に子どもたちを置いてあげられているのか？　高校内申点から出欠欄がなくなる。学校は積み上げ型だけに、ずっと不登校が続いた先に全日制に入学しても通えないケースもある。「学びに向かえる環境」を整えることが大切。　教育委員会が消極的、教育支援センターが機能していない場合は？民間が頑張ってる！ところと連携。不登校対策会議、何をしてくれているか議論していくことからかと思いました。

・不登校の現状、知らないことを知れてよかったです。身近な帯広市の取り組みが知れてとても良かったです。当事者さんのお話が聞けて希望が持てました。感動し涙が出ました。素晴らしい！ありがとうございました。

・今日の講演の中で印象に残っていたのは、「子どもが行きたい学びたい授業、学校なのか」ということ。社会は大きく変化していて、授業も少しずつ変化しているが、子どもにとって魅力的かどうかは疑問である。また先生方の意識も昔のものの人が多いと感じる。春日井市の授業は YouTube で見たことがあるが、あれをするための先生方の研修は時間がかかりそうだ。また、先生方だけでは限界があり、専門的な方たちと連携する必要性も感じた。しかしスクールカウンセラーと相談するには２か月は予約がかかる。スピード感は出にくい。私は不登校支援を担当しているが、原因、家庭環境も多様で、一人では抱えきれないのが現状。不登校支援だけが仕事ではないので、授業をしながらやっていると難しい。「チーム学校」はとても必要な考え方だと思った。勇気をもって自分たちの経験を語ってくれた二人の言葉は大変勉強になった。当事者の言葉が一番のヒントが得られると感じる。ありがとうございました。（教員）

・文科省、市教委、NPO、当事者と様々な立場の方のお話を聞けて良かったです。子どもたちに必要な支援は何だろうか、そのために学校や公的機関、民間がどのように連携すべきかを改めて考えるきっかけができました。上久保さんが学校の立場を考慮して話してくださっていたのが教員として少し心強かったです。学校が悪ではなく、みんなで考えようというのが全体で感じ取れました。こちらこそ、ありがとうございました。

・大変貴重な機会をありがとうございました。不登校政策を推進する文科省から直接お話をきけることは、とても貴重な場であると思いました。帯広市教育委員会の取り組み、大変心強いものだと感じました。いろいろな取り組み、メタバースの取り組み、指針がはっきりしておりすごい取り組みだと思いました。

・保護者との連携の難しさ、家庭環境の不安定さからの不登校が増えており、しかし、子どもの衣食住は最悪な

がらでも確保されているため、児相なども警察なども入りずらい。そのような家庭との連携が難しくなっている。役場や町教委とも共有はできているが保護者支援の体制づくりが課題、そもそも保護者も困り感がなかったりするので。そういった保護者、家庭、本人へのサポート手段を知りたかった（※午後の交流会での話より）

・紙に書いてあること以外で何か話された気がしなかったか。もっと色々な話題をもうちょい面白く話せる人は文科省ともあろうにいらっしゃらないのでしょうか。誰一人取り残さない…が既に無理。北海道広い、学校しか行けるとこない、そこで取り残されてる。常に大人たちの視点、子どもの想いを受け止める努力をしていない。アウトリーチで死ぬ子も出るかもしれない。学校側はたいていデリカシーがない。親にも子どもの気持ちより学校のほうが大事なので子どもは追い詰められる。こういう視点が欲しいところだ。学校的価値観に打ちのめされた時の子どもは評価よりもゆっくり眠れて安心して過ごせること。でも保護者は少しでも早く学校に行ってほしい、進学もしてほしいので評価に飛びつくかもしれない。結果、家庭内にも居場所を失う子どもがいることも念頭に置いてほしい。スピーカー型授業がしんどいのは大人も同じ。集中力は 15 分が限度なのでセミナー方法も少し検討いただきたい。みんなで考えアイデアを出せる会だと勝手に思って参加したが「聞かされるだけ」。

・子どもだから、大人だからではなく、人間はだいたい同じと捉えることが大切だと個人的に思っています。問題を解決できるだけのパワーと能力を持っている人たちは民間にたくさんいますが、そこにお金が流れない限り、根っこは変わらないと改めて感じました。少子化なのだから昔より「個別」の学にはしやすい。「教員不足」が問題ではなく、教員を分業化をする覚悟を持っていない文科省のマインドが課題。学校に入るたび、この人たち（教員）1 人分のお給料を民間に払えば 2 倍以上の効果になると思っています。学校が不安になりやすい場なのは、今も昔も変わらない。対応があまりに遅い。公民の共働が最終形態である。いきなりは難しいという言葉にがっかり。いつまで草の根運動を続けて教員や民間の有志を疲れさせモチベを下げさせるつもりなのか。

・私は市内の中学校で相談員をしています。教職を退職後、市教委こころの教室相談員として働かせていただいています。不登校の子との触れ合いをライフワークにしています。学校で不登校の子や親と相談しています。特に親御さんとの話の中で不登校の子が学んだり親が情報を得ることを知れて、今後に活用できそうでよかったです。また上久保さんの話はココロプランについて少し深めてよかったです。遠いところありがとうございました。不登校体験者の声はとてもよかった。出席してくれた生徒 2 名、すごいね、成長の様子を知れた。

・文科省の方が来られるということもあり、内容含め堅い雰囲気なのかなと少し構えて行ったのですが、久保理事長の自然な合いの手や挨拶もあり、ぷれいおんらしいアットホームな雰囲気での開催になっていて、参加しやすかったです。上久保さんのお話については、不登校の問題は学校批判や教員批判にも繋がりがちですが、課題は述べつつも、文科省として「教員を守る立場」に立ってお話をされているなと感じて、教員をしている身としてはありがたかったです。一方で、当事者の方や保護者の方は少し違和感のある言葉もあったのではないかなとも感じました。（話す対象が多岐にわたっていたので、上久保さんも言葉を選ばれたりかなりご苦労されたのではと思っているので、批判する意図はありません）「発達段階に応じた、その時に適した学習を子どもたちに提供したい」ということは学校教育の大事な視点であり、「子どもたちが学校に来る意義」にも繋がると感じました。ただ発達段階については、個人差も大きく、興味関心も子どもによって大きく異なる中で、現行の教科書教材メインの学習スタイルには難しさを感じているところです。また、個人的に最も感じたのは「学校は多様であるべきだ」ということです。例にあった授業のように、今現場では学習スタイルを選ぶといった授業改善が進められており、それ自体は前向きに捉えているのですが、いくら授業のやり方を変えたとしても、小学校では子ども達が関わる大人は毎日、1 年ないし 2 年間はほぼ担任に限られてしまうことが大きな問題であると考えています。

上久保さんの話にもあったように、教師はスーパーマンではなく、人間であるので、どうしても相性の合わない子どもは出てきてしまうと思います。そんな中で閉鎖的な教室で毎日過ごさなければならないのはお互いに苦しいところがあるのだと感じます。なので教科担任制は高学年に限らず広がっていけばいいなと思いますし、帯広市は専科も少なく本当に授業でいっぱいいっぱいなので、人手が何より欲しいところです。また民間企業や地域とのつながりももっと日常的になればいいなと感じています。教師の指導スタイルもトップダウン型、ボトムアップ型、色々あるかと思いますが、個人の印象としては帯広市はトップダウン型が主流であり、それを心地よいと思っている子ども達や保護者が多いように感じています。なので、不登校のクラスメイトに対して「学校サボっていてずるい」といったような価値観も子どもたちに潜在的にあるなと感じることがあります。実際に勤務校で教師が不登校の児童に対して「嫌なことから逃げてばかり」「将来やっていけない」などと発言しているのを何度も聞いたことがあり、そういった教師の見方が子どもに伝染してしまっているように感じています。不登校と一口で言っても、色々な背景があり、色々なタイプの子どもたちがいるので一概には言えないのですが、「子どもも親も苦しんでいる」という視点は教員が持たなければならない視点だと思っています。今、昨年担任をしていた児童の不登校支援が校内の体制がうまくいっておらず、もどかしさを感じていたところだったので、改めてチーム学校として動くことの大切さや、民間とも協力体制を作る重要性を感じ、具体的に動くための背中を押された機会となりました。この機会を作ってくださった全ての方にとても感謝しています。大変長くなりましたが、教育に一生懸命な方達が一堂に会す機会はパワーがあるなと感じました！せっかくの機会だったので、最後少しの時間でも良いので感想や今の自分の課題意識等含めて、近くの参加者の方々とシェアができる機会があったらより嬉しかったです。とにかく何が子どもたちにとって「良い」のかをひたすらに考え続ける、とても有意義な時間となりました。

・不登校支援をはじめ様々な教育改革が必要であるとますます感じられた。自分は不登校支援にも興味があって、一度星槎高校の先生に電話で不登校支援についてインタビューしたことがあるが、その時は生徒の挑戦を妨げない環境づくりや、その挑戦をさせてあげることが大切だとおっしゃっていた。このような押し付けをしない教育については、本当に重要になってくると今日の話をきいてますます思った。また、このようなフリースクールが増えてくると、いよいよ学校の存在意義についても問われてくる。ただ学び、社会性を教えるのではなく、何らかの改革を施さないことには、不登校も増えていく一方であると思う。このように学校を変える、十勝から変えることを念頭において、大学でしっかり研究していきたい。

・部屋がいっぱいになるぐらい参加が来ていてみなさんの関心の高さが伝わりました。また、星槎国際高等学校の先生と生徒のお話しを聞いて、何か本質の気づきと我々大人の役割が明確になった感じがしました。たくさんの気づきを与えてくれる場に感謝です！

・素晴らしい時間でした。たくさんの人が関心を寄せていて、その中でも行動できる１人で在りたいと思わせてもらいました！ヒントはたくさんあって、でもすぐには出来なくて。でも、当事者として、子供達の未来を守るためにも、保護者の苦悩を軽くするためにも、教員の負担を減らせるためにも、私は自分のスキルを橋渡し（コーディネーター）的存在や関わりをしたいと思いました。実際に行動してカタチにして行くには、何から出来るのだろうか、考え続けていきます。